

千曲川河川事務所中野出張所では、令和7年8月3日（日）、栗林区の皆様を対象に、「上今井遊水地周囲堤その1他工事に関する説明会」（会場：栗林公会堂）を開催し、18名の皆様にご参加いただきました。

説明会では下記の内容についてご説明しました。

①工事の概要（周囲堤の盛土範囲、作業工程）

②工事期間中の堤防から農地への進入路、迂回路のルート

8月中旬より現地の工事に着手しています。

工事期間中は皆様に大変ご不便をお掛けしますが、安全に工事を進めてまいりますので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

今後、県道三水中野線の栗林区から上今井橋間においても遊水地の堤防工事に着手する予定のため、工事の概要や農地への進入路等について、関係する皆様へご説明させていただく予定です。



工事説明会の様子

河川事務所職員コラム

～ 岐阜県の「栗きんとん」はおせち料理にあらず～

岐阜県のグルメといえば、全国的にも知名度の高い飛騨牛や清流長良川で育った新鮮な鮎料理などを思い浮かべる方も多いと思いますが、実は、県東濃地区の中津川市が発祥の地とされる「栗きんとん」も有名なんです。

栗きんとんというと、一般的にはお正月のおせち料理をイメージされる方も多いと思います。黄金色で甘く、金運や勝負運上昇の意味が込められた縁起の良い食べ物ですよね。しかし東濃地区を中心とした岐阜県の栗きんとんは黄金色ではなく、おせちにも登場しません。

中津川発祥とされる栗きんとんは明治中頃に和菓子として誕生したと言われています。主材料は栗と砂糖だけのシンプルな作りで栗そのものの味を堪能することができます。茹でた栗をペースト状にし、砂糖と合わせ、茶巾で絞る。繊細で良質な味わいの和菓子です。

岐阜県内でも有数の良質な栗の産地である中津川市。江戸時代、江戸・日本橋から京都・三条大橋までをつないだ“中山道”が整備され、中津川も宿場町の一つとして多くの旅人や大名が訪れました。一説によると、そうした人々が疲れ切った体を休めたり様々な情報を交換したりする傍らで、宿場町の人たちが栗きんとんの原型となるようなものを作り、旅人たちにふるまっていたとか。

まだまだ暑い日が続きますが、意外と秋はあっという間にやってくるかもしれません。ぜひ今の時期から食欲の秋に思いを巡らせてみるのはいかがでしょうか。



岐阜県西濃地区出身職員



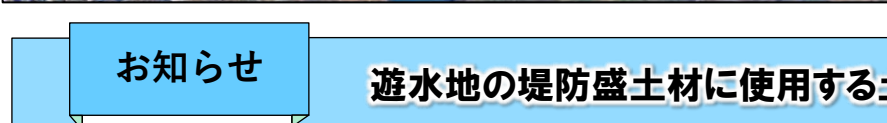
岐阜県中津川市発祥とされる
 「栗きんとん」

お問合せ先

- 事業全般に関すること
- 用地補償に関すること
- 工事に関すること

千曲川緊急治水対策出張所
 千曲川河川事務所 用地第一課
 中野出張所

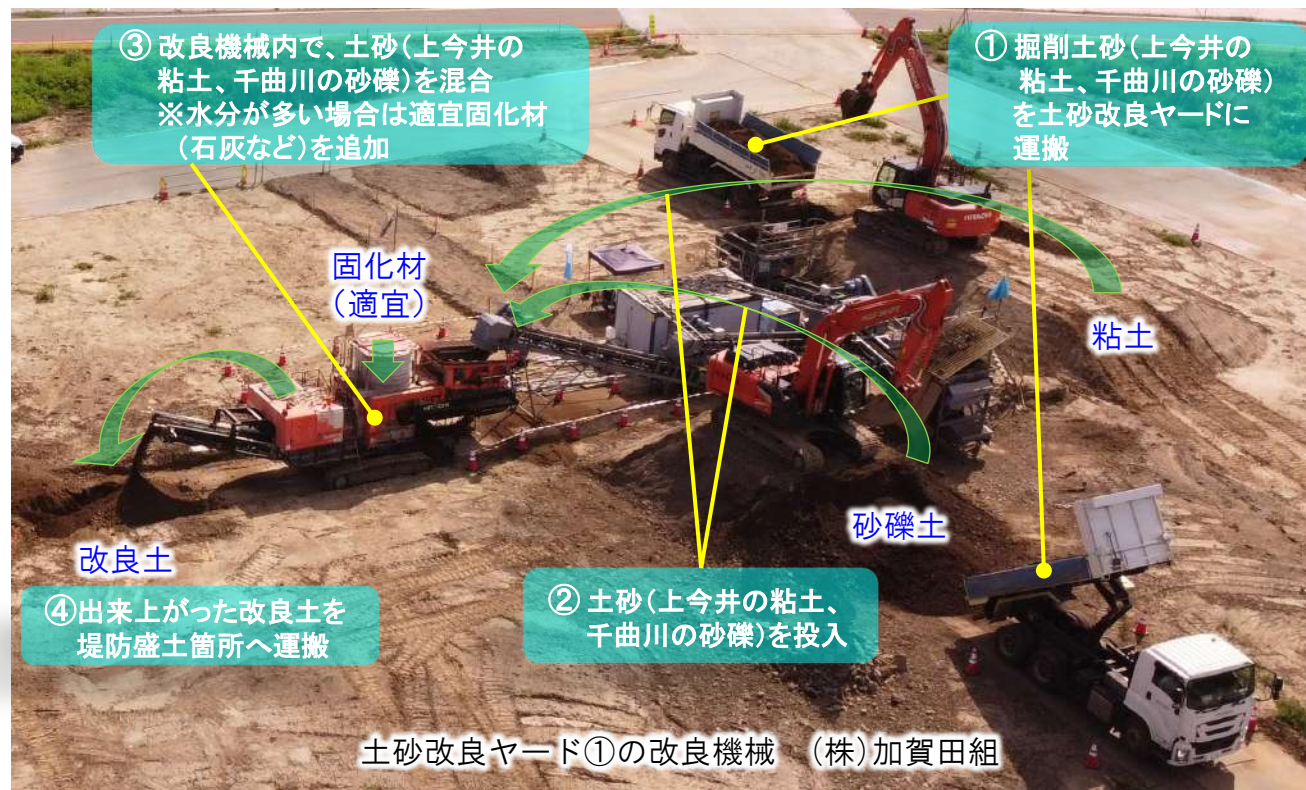
電話 0269-67-0450
 電話 026-227-7613
 電話 0269-22-2729



遊水地の堤防盛土材に使用する土砂の改良がスタート！

現在、上今井遊水地の堤防整備が本格化しています。

堤防の盛土は、上今井遊水地の器を確保するための掘削土と千曲川の掘削土とをブレンドして改良したものを用いることとしており、今年8月上旬より上今井遊水地内で改良作業が始まりました。今回は堤防の盛土材が出来るまでをご紹介します。



③ 改良機械内で、土砂（上今井の粘土、千曲川の砂礫）を混合
 ※水分が多い場合は適宜固化材（石灰など）を追加

① 掘削土砂（上今井の粘土、千曲川の砂礫）を土砂改良ヤードに運搬

固化材（適宜）

粘土

砂礫土

改良土

④ 出来上がった改良土を堤防盛土箇所へ運搬

② 土砂（上今井の粘土、千曲川の砂礫）を投入

土砂改良ヤード①の改良機械（株）加賀田組

上今井遊水地の現地では、9月上旬現在、2箇所の土砂改良ヤードがあり、それぞれ現地の状況等に応じた改良機械により、日々堤防の盛土材を作り出しています。



土砂改良ヤード②の改良機械
 （株）飯島建設

～ なぜ土砂の改良が必要な？～

堤防は土でできている構造物であり、洪水による浸食や雨水の浸透などに対して耐えられる性能が必要です。このため、堤防の盛土材は、使用する土砂の粒の大きさなどを事前に確認したうえで、ブレンドする割合などを決定しています。

上今井遊水地内の掘削土は粘土分が多く、締固めを行っても堤防に必要な強度が得られず、そのままでは堤防に用いることができません。このため千曲川の掘削で発生した砂礫（砂や石ころなど）と混ぜることで、堤防の強度が確保できます。なお、水分が多い場合は、石灰などを追加することで、強度を確保します。

